修行のあとの修行

私の実家のある愛媛の小さな町では、お盆に地元の僧侶が一件一件家を回り、お盆の供養をしてくれます。

実家は留守宅になっていて、我が家のお位牌は施設入所している母の部屋に小さな仏壇を置き、母が守ってくれています。お盆には実家に僧侶が来られますので、お位牌は実家に帰ってもらい、私が慣れないながらもお霊供を準備します。

ところが今年のお盆は、母がコロナに感染しお位牌を持ち出すのも難しい状況で、お寺にお願いし、お寺の位牌堂（ここにも各家のお位牌がおいてあります）で供養をしていただくことにしました。いつもの住職様だと思っていたら、前日に電話があり、「副住職が私の代わりにさせていただきます」とのことでした。

当日、お寺に行くと若い副住職の方が迎えてくれました。「息子さんですか?」と聞くと「そうです。ここの長男です。8月1日に大分県の寺での修行を終えて帰ってきました」と。とても礼儀正しくて、清々しく、いい目をしておられました。

「跡取りさんがおられるのは、有難いことです。安心です」とお伝えしました。 そして、供養をしていただきました。住職の読経の声にはかないませんが、お腹の底から響く、とてもいい声でした。修行を積んでこられたのだなと感じました。

供養が終わり、お寺の本堂前の階段を降りて、もう一度御礼を言った時、副住職は本堂前の広縁に座り深々とお辞儀をされました。とても美しい姿でした。

福井県出張時、雪の降り積もった永平寺に行った時、僧侶が廊下を歩いて行かれる後ろ姿を見た時に感じた、凛と張り詰めているようで力は入っていない、なんとも言えない美しい姿を見た時の感覚を思い出しました。

修行を終えて帰ってこられたとのことですが、現実の社会の中でこそ本当の修行が始まるなと心の中で思いました。そして、この現実の中で修行で身につけてこられたものを大切にし、より高潔に、清々しい姿を見せ続けてほしいと願います。毎年お盆にお会いし、その変化を楽しみにしたいものです。

　このように感じながら、私が実施している介護事業者様向けの研修でも同じような事が言えるなと思いました。研修を受講された直後は、あれもしよう、これもしようと、受講後のレポートなどにも書かれますが、どれだけ実行し継続できるかというところが、研修実施の本当の成果になります。

　研修の度に、何か一つでも心に残り実行・継続に繋がってほしいと願いながら、資料作り、事例、経験談などを準備をします。準備にかける時間は、実際の研修時間の何倍もの時間をかけます。おそらく修行をする寺でも、何度も何度も練り直しながら、修行の形が出来上がったのだろうと思います。

　私が実施する研修も何度も何度も練り直し、考え、リハーサルを続ける日々です。

垣内　イスズ